

(様式 1)

令和 7 年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立中和小学校
校長名	影山 祥仁

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
・全体的に「知識・技能」の定着は良好で、特に低学年と英語で顕著な成果。 ・第 2・3・4・6 学年国語で全国平均点を上回った。 ・第 6 学年の英語が全国平均点及び区内平均点を上回った。	・第 5 学年は社会・算数・理科で全国平均正答率を下回った。 ・「思考・判断・表現」の観点では学年が上がるにつれて課題が顕在化。 ・記述式問題の正答率が全体的に低めであり、表現力・活用力の育成が今後の重点課題。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
・友人や教師に対しても「気持ちを分かってくれる」「努力を認めてくれる」と感じている児童が多く、人間関係の信頼性が高い。 ・授業中の発言や話し合いへの積極的な参加も見られ、コミュニケーション力が育っている。 ・自分の良いところを認識している児童が多く、自己肯定感が高い。	・学力が低い層（C・D 層）では、自分の気持ちを理解してもらえていないと感じる児童や、相談できないと感じる児童が一定数存在。 ・ノートの取り方や間違いの直し方に関しても、学習への主体性にばらつきが見られる。 ・中学年～高学年にかけて、対人ストレスの兆候が見られる。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
・全学年で国語・算数を中心に全国平均を上回る正答率と標準スコアを記録。2 年生国語（標準スコア 53.4）・3 年生国語（58.5）・6 年生英語（56.0 は、全国水準を大きく超えた。英語では 6 年生が 90%近い正答率を記録。 ・「思考・判断・表現」の観点で、3・4・6 年生が全国平均を上回る。3 年生算数（標準スコア 54.5）や 6 年生算数（54.3 では、活用力・応用力の育成が見られる。 ・3 年生国語・算数、4 年生国語・理科、6 年生英語・算数など、前年からの標準スコアの上昇が確認されており、学年を追うごとに着実な成長が見られた。	・算数・理科の「活用」領域に課題 5 年生算数（標準スコア 47.9）・理科（48.4）、4 年生算数（47.9）など、活用力に課題が残る。 ・記述式問題の正答率が選択式に比べて低く、表現力・論理的思考の育成が必要。 ・C・D 層の児童では、自己肯定感や相談行動に課題が見られ、学力と心理的安全性の関連が示唆される。 ・学習習慣やノートの取り方、復習の仕方に差があり、学習の質の底上げが求められる。 ・5・6 年生では、対人関係の不安やストレスの兆候が見られる。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 学習指導の重点的取り組み

学習指導の充実

- ・個に応じた指導（少人数指導、学習補習教室の活用）
- ・ICT 機器を活用したきめ細やかな指導
- ・自力解決にこだわる力、自分で考えやり抜く力の育成
- ・発表の場を授業に組み込み、表現力・伝達力の育成

授業改善と学びの質向上

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
- ・インプット型からアウトプット型への授業転換（練習・応用問題の時間確保）
- ・視覚的刺激を活用した体験的学習の推進

ICT の活用と見極め

- ・ICT 機器の効果的な活用と、非 ICT の方が効果的な場面の見極め
- ・タブレットを活用した家庭学習・振り返り学習
- ・データを活用した調べ学習と意見表現の支援

教育課程の計画的実施

- ・学習指導要領の円滑な実施
- ・教育課程の計画的な運営

校内外の連携と研修

- ・校内研究による学力向上の手立ての提案・実践
- ・授業観察（年3回以上）と相互授業観察による授業改善
- ・OJT 研修、区小研、校外研修への積極的参加

外国語教育の充実

- ・外国語指導員の活用
- ・外国語担当教員を中心とした外国語活動の充実

読書活動の推進

- ・読書旬間に発達段階に応じた本を選び、読書の楽しさを体験させる

支援体制の強化

- ・学校支援指導員、SST、学習指導講師等の活用による個別指導の充実

(2) 学力調査の結果から明らかになった課題への取り組み

【全教科】

- ・諦めずにやり遂げる力を身に付ける。
- ・発表構成の指導と練習を通じて、論理的で伝わる発表を目指す

【理科】

- ・観察のポイントを明確にし、記述方法を指導することで、詳細で正確な記録を促す。
- ・学習計画表と振り返りシートを活用し、自己管理能力と学習の可視化を図る。

【社会】

- ・絵図、グラフ、写真などの資料の見方、読み取り方など、色々の資料を複合的に見る力を授業展開の中で重視しながら学習を進めていく。

- ・ICT 機器やタブレットを活用して、児童に興味関心をもたせるような教材を作成し、指導の充実を図る。

【算数】

- ・九九の確実な定着
- ・掛け算と割り算の活用の練習を増やす。
- ・「割合」「単量」「比」の考え方を 2～6 学年で系統的に確実に定着するように指導する。
- ・ペア学習、グループ学習などの話し合い活動を通して自分から問題を解決する姿勢を身に付ける。

(3) 学力向上のための取り組み

【個別最適化の学びと協働的な学習を一体化させた授業の確立】

- ・墨田区教育委員会研究協力校として研究を行い、児童の学ぶ力向上を目指す。
- ・ICT 学習アプリやすみだ教育研究所からの問題シートを活用した学習を実施し、学習のふりかえりや家庭学習を効果的に行い、児童の基礎・基本の学力の定着を図る。
- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた学習の実現に向けて、各分科会で学習をデザインしていく。「個別最適な学び」と「協働的な学び」を児童生徒の実態に応じて適切に位置付けながら、資質・能力の育成を目指す。

【基礎的・基本的な学習内容の定着】

- ・基礎学力補充を重点とした「放課後学習クラブ」、C 層を B 層に引き上げるチャレンジ学習である「中和塾」を実施する。どちらも学習支援指導員が行う。「放課後学習クラブ」では、基礎学力の定着、学習内容の補充指導が必要な児童を対象に、週 3 日国語・算数を中心にタブレットを活用して基礎・基本の定着を図る。また、「中和塾」では、週 3 日児童の学習意欲を高め、発展的な課題に挑戦し、自力解決力を高める。
- ・第 1・第 2 学年では「チャレンジ教室」を実施する。特に、DE 層の児童に対しては、学習支援指導員と連携し個に応じた TT 指導を行う。また、授業では確認問題や「ふりかえりシート」等を繰り返し行い、基礎学力の定着を図る。
- ・理科・社会の問題データベースプリントを活用する。

【教員の授業力向上】

- ・研究 0JT では、校内研究前の授業研究を実施した後、事前授業を行うことによって、授業内容を理解して校内研究に臨み、協議会で活発な意見交流ができ、教師力を磨く機会となるようにする。
- ・教師のための 0JT 研修では、主任教諭が中心となり、若手教諭の悩みごと、自学研修を基本とするショート 0JT を週 1 回、ロング 0JT を月 1 回開き、コミュニケーションを大切にしながら研修を行う。

3 「令和 8 年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・全学年令和 7 年度との経年比較での全教科 DE 層の割合を 5 ポイント減少させる。
- ・全学年令和 7 年度との経年比較での全教科 AB 層の割合を 5 ポイント増加させる。
- ・全学年算数科で全国平均正答率を上回る。
- ・記述問題の無回答率を 10%以上減少させる。